

## 「9 地域での防災活動に参加しよう」

学習のねらい：1. 地域での防災活動に関心を向けさせる。

2. 自分の地域の特性を考慮したうえで、必要な防災活動を考え、さらに災害に強いまちづくりも考えさせる。

### 9 地域での防災活動に参加しよう

東日本大震災以降、日本各地で防災活動が盛んになりましたが、あなたは自分の地域の防災活動について知っていますか。また、参加したことがありますか。

① 地域で心配されている災害	南海トラフ地震による津波、土砂災害
② 地域で行われている防災活動	自主防災組織での津波避難訓練 台風発生による水防訓練 など
③ ②に参加するメリット、参加しないデメリット	メリット：避難場所がわかった。 デメリット：避難時に逃げ遅れる。
④ あなたが今まで参加した防災活動	地域合同の津波防災訓練
⑤ ④であなたの印象に残ったこと	避難場所までの時間がわかった。

(地域により想定される災害は異なるので、今後、他の地域に移り住むことになった場合は、前もって調べておくことが重要です。)

○あなたの地域で今から防災活動が企画されるなら、どんな活動が望ましいですか。  
例) 指定避難所での避難体験、地域での防災マップづくり

津波避難訓練、消火訓練、水防訓練 など

○あなたの地域を災害に強くするには、どうしたらよいでしょうか。

まちの中心的機能を高台などへ移転する。自宅の耐震補強。  
公共施設の耐震補強を行う。地域全体で防災訓練を実施する。  
受援力を高める など

(指導上のポイント)

- ◆各市町防災担当部署のホームページなどで調べておくよう指導する。
- ◆地域の方との助け合いや連携の大切さ、地域の防災訓練やボランティア活動の参加などの必要性について指導する。

(指導上のポイント)

- ◆自分が住む地域の特性をまず考えた上で、防災・減災のため、どのような活動が相応しいか考えさせる。
- ◆地域の特性を考えると優先する活動順位が変わることを指導する。

【沿岸部】

津波避難訓練

【内陸部・河川近く】

風水害・土砂災害に対する備えと避難訓練

消火訓練や地域の課題さがし(高齢者など災害時要援護者が多い地域等)、介護用品を使った訓練や指定避難所との合同避難所運営訓練

(指導上のポイント)

- ◆自分のまちを災害に強いまちづくりにするには、ハードとソフトの両面から考える必要があることを指導する。
- ◆自分たちだけでなく、外部の人たちの支援を受け入れたり、新しいつながり・絆の創出やさまざまな団体の支援を得たりする(受援)など、復旧・復興の力を幅広く、重層的に高めることも地域防災力を高めることに繋がることを指導する。

(次年度以降の展開例)

- ・市町防災担当部署に連絡して、地域と連携した防災活動を検討する。
- ・県や市町の防災計画などについて調べさせる。などが考えられる。

(確認)

自分が住む地域の防災活動へ参加することの意義を理解できたか。